

# 広報みだい



## 思い

日頃より、擁護者の皆様並びに関係者の皆様には、みだい寮の運営に深いご理解とご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。

今年も二つある畑を交互に使い落花生とサツマイモを作付けしました。植え付けの準備作業中に、利用者のKさんに「俺も手伝うから」と畑の周りの雑草を抜きながら熱心に話しかけてもらいました。昨年は黒ピーナツの出来が今一つでした。「苗半作」といいますからしっかりとした育苗を心掛け、カラス除けの黒テグスを張り移植しました。これからは雑草退治を手伝ってもらいながら、作物が実をもつのは感動的ですので収穫祭を楽しみに待ちたいと思っています。

さて、昨年度から進められた改正社会福祉法により改定された定款に基づき、新評議員九名と新理事八名の皆様が決まりました。六月九日には議決機関となった定時評議員会が開催され、平成二十八年度の事業報告・収支決算報告等種々の議案が承認されました。(法人全体の計算書類はHPで閲覧が出来ます。)

また、社会福祉法第五十五条の二の規定に基づく社会福祉充実残額の再投下事業の社会福祉充実計画も承認され、所轄庁に申請し承認を得ることとなりました。私たち法人の事業継続、地域の福祉ニーズを踏まえた福祉サービス事業を展開するうえで、有効な再投下となると思っております。

国からは昨年度末に「障害者福祉サービスの利用等にあたっての意思決定支援ガイドライン」が示されました。二年前の夏の機関誌に、職員は日常生活の直接支援の全てで意思決定支援を行っていますし、ステージの変わるとき、利用者の最善・最良な利益と判断できる意思決定に配慮した支援とどのようなプロセスを踏めば良いのか、取り分け気になると書いたのを思い出しました。いま、職員間で共有するため施設にマッチングした意思決定支援ガイドライン作りを行っています。

私たちの役割は利用者の意思を尊重した質の高い福祉事業サービスの提供です。今年度も第三者評価基準に基づき行った「自己評価」をHPに開示しております。改善されたところもあります。職員一同日々努力し、求められる多様な福祉サービスに対応できる社会資源としての施設運営に努めてまいります。

養護者の皆様並びに関係者の皆様には、これからもご指導ご協力をお願い申し上げます。



みだい寮施設長 小林 正博

平成 29 年度 利用者会役員選挙が 5 月 22 日(月)に実施されました。

### 《平成 29 年度 利用者会役員の挨拶》



会長 天野 多恵子さん  
「会長として、1年間頑張りたいです。  
他の役員の皆さんも頑張っていきましょう。」



副会長 堀内 修さん  
「1年間頑張ります！」



副会長 坪川 美佐子さん  
「副会長、頑張ります!!」



会計 伊藤 すみかさん  
「頑張ります！」



会計監査 矢崎 由美さん  
「皆のために頑張りたい  
と思います」



書記 有野 佳代子さん  
「書記を頑張りたいです。」

【1年間、よろしくお祈いします!】

### 〈新任・退任職員挨拶〉

〔新 任〕



はじめまして、山岡と申します。  
私は、以前も別の障害者施設で働いていました。みだい寮の利用者の方は、前の施設の方たちよりも少し先輩かなあとありますが、元気で自立して過ごされている印象です。ここでの生活を安心して送って頂けるよう関わっていかれたらと思います。  
今後とも、よろしくお祈いします。  
看護師 山岡 安美



4月より調理員として勤務しております、上田彩と申します。  
以前、梨の実寮の調理員として、8年間勤めていました。その経験を活かして、安全で美味しい食事を提供していきたいと思っています。どうぞよろしくお祈いします。  
調理員 上田 彩

〔退 任〕



5年間、お世話になりました。  
利用者さんの笑顔と『美味しかった』の言葉にすごくやりがいを感じられたお仕事でした。皆様のご健康をお祈いしております。ありがとうございました。  
調理員 植松 さくら

# みだいで写真部の活動について

支援員 望月 勇希

今年度より、職員企画として『みだいで写真部』を立ち上げました。どんなことをするのかという点、「寮やその周辺で日常の様子を写真に残す」、「車で少し遠くまで足を伸ばし、季節の植物や景色・風景を撮りに行く」といったことをして思い出づくりができるよう取り組むものです。これを企画するに至った発端は、「利用者さんが外出する機会をさらに増やせたら」、「職員が補助をしつつ」自身で写真を撮る経験をさせてあげたい、そういった思いでした。

事前に利用者集会で呼びかけたり、寮内の掲示板に案内を貼ることで参加者を募りました。六月に外出の第一弾として五名の参加者と一緒に、富士川町小室山妙法寺のあじさい祭りに行ってきました。現地に到着して少し風景を眺めた後で、寮より持参した二つのデジタルカメラを順番に使っての撮影に移っています。初めのうちは、それぞれに職員と一緒に構え方・シャッターの切り方など簡単に操作方法を教え、補助しながら取り組みました。

Kさんはどうしても手ブレしてしまうためレンズの縁部分を軽く押さえて補助する必要がありました。加えて職員の合図でシャッターを切ることで背景をボカしつつ綺麗に花を撮ることができました。またHさんは、最初こそ職員のアドバイスを受けていたものの、次第に自ら花を選んで積極的に撮影する姿が見られるようになり、その一連の様子が印象に残っています。

今回、写真部として初めての外出活動でしたが、実施してみても感じたのは職員への補助を受けつつも、撮れた画にはそれぞれの「らしさ」・それぞれの雰囲気があるということです。大袈裟かもしれないですが、中には一種のアウトのように感じられるものもありました。こうしたものを写真に残し共有・共感できるように、次の活動にも取り組んでいきたいと思っています。

しかしながら、その活動の実施および写真に収めることができるのは利用者さんの参加あってのもので、これにより第一弾の取り組みが行えました。また今回は、主に自身でその有無を決められる人たちの参加となりました。しかし、意思表示は難しいものの、「この人であればこの企画は楽しんでもらえるかもしれない」と普段の様子など色々な要素から見定め、そうした人たちのグループでの活動も検討しているところです。今後でも外出の機会を提供し、かつ『参加してみたい』と思ってもらえるような企画を考えていきたいと思っています。ありがとうございます。



# 本人のニーズに寄り添うこと

支援員 小野 友樹

みだいで寮では、日々様々な日中活動を行っています。その中の活動の一つに「担当別活動」という、担当利用者の希望を取り入れて一緒に取り組む活動があります。担当利用者と職員との少人数で動くため、よりきめ細かい希望を取り入れることが可能なため、利用者からも好評なようです。

私の担当利用者は、のんびり過ごすことを好むマイペースな方です。今回の担当別活動では何をしたいか？の問いに対して、「おかあさん」と答えてくれました。おかあさんの事が大好きで会いに行きたいとの事でした。

また、計画を立てていく中でおかあさんが八十八歳の米寿という事が分かり、今回の担当別活動の目的は「おかあさんの米寿をお祝いしよう。」に決めました。

私の担当利用者は、自分の想いを口に出すことが出来ませんが、皆がそういうわけではありません。中には自分の想いを口に出すことが苦手な方もいます。そんな時にどのようにして想いを汲み取れるか？どんな方でも意思はあります。表出しているがこちら側が見逃しているのではないかと？

日頃の支援の中で、一人ひとりのサインを見逃さず、ちょっとした表情の変化や反応から汲み取る。また、本人の特性や現在までの背景をしっかり捉えること。「アセスメント」の大切さを再認識し、更に磨いていくべきだと思いました。

さて、担当別活動の様子ですが本人とおかあさんとの会話はそれほど多くありません。「ありがとう」、「元気にしてる？」ぐらいです。沈黙もありますが、ただそこはやっぱり親子。別に会話など必要ありませんでした。自然に手を繋ぐおかあさん、それをニコツとして返す本人。おかあさんに会いに行く為にも体調を崩さず健康に過ごしましょう。



# 行事・活動のハイライト

## 2月 節分



【お楽しみ会は《縁日》でした♪】



【みんなで鬼退治！】

## 3月

### お楽しみ会 お別れ会



【出逢いがあれば、別れもあります。。】

## 6月 自転車クラブ みだい写真部



【色々な自転車に乗りました！】

## 5月 スポーツ大会



【バン食い競争、頑張りました！】



【富士川町 小室山のあじさい寺にて】

# 平成28年度の福祉サービスの 自己評価へのとりくみについて

社会福祉法等の一部改正により、社会福祉法人が担うべき役割が大きく問われています。公益性、非営利性、地域社会への貢献、国民への説明責任を果たしていかなければなりません。サービスの質の向上を図るためには、その内容を検証、評価は不可欠です。昨年度取り組んだ自己評価を今後も継続して行きます。平成28年度も前年度同様（評価基準の項目の見直しも全社協等でおこなわれるようですが）、「福祉サービス第三者評価基準（障害児者施設）」をベースとして、昨年度の課題を検証するかたちで、みだい寮のサービスの現状を評価基準の項目ごとに再確認しました。

とりくみの流れは次の通りです。

1. みだい寮における昨年度の自己評価の結果と比較検討するかたちで、職員全体に「評価基準の考え方と評価ポイント・着眼点」（基本編）・「評価基準の考え方と評価ポイント・着眼点」（支援編）それぞれの「回答用シート」に記入をしてもらおう。
2. その結果を持ち寄り、年度末（1～3月の職員全体会議にて）全項目について、課題の取組状況、改善された点、課題として残されている点を検討、28年度の評価をおこなった。

平成28年度の自己評価のまとめとして、

1. 「理念や基本姿勢」「計画」の利用者・家族・職員への説明と周知という点で、わかりやすい資料を作成し、利用者集会・養護者への説明会にて説明・周知を行った。また、資料作成の過程において職員の理解も深まり、A評価（項目 NO. 4・8）とした。
2. 人事管理や職員の就業状況に関しては、法人3施設における法人運営会議の定着により、職員採用や就業状況の課題把握の共有化が行われてきている（項目 NO.16C ⇒ B 18B ⇒ A）。
3. 地域の福祉ニーズの把握については、GH どんぐりの森の建物や土地の購入等をきっかけに法人による南アルプス市との意見交換を継続的に続け、地域生活支援拠点整備に向けて取り組んでいくこととなった（項目 NO.32B ⇒ C）。
4. サービスの質の向上に向けての組織的取り組みについては、自己評価の実施と継続がおこなわれた（項目 NO.41・42・43を A 評価）。
5. 大きな課題としては、利用者のアセスメント、個別支援計画の作成、モニタリング、再計画は実施されているが、個々の意思決定支援と合理的配慮を適切におこなう上での職員の力量不足が揚げられる。ガイドラインをもとにみだい寮におけるマニュアルづくりの学習会に取り組み始めたが、次年度への継続的な課題となる。

平成28年度の自己評価の結果についての詳細は、ホームページをご覧ください。

# 7月～12月の行事予定

7月	七夕
8月	開所記念 納涼祭
9月	障害者文化展
10月	福祉村祭り
11月	収穫祭
12月	クリスマス会 餅つき大会 大晦日パーティー

## 平成29年 1月～6月までの 苦情解決

平成29年1月1日～6月30日までの間、社会福祉法人 山梨県手をつなぐ親の会「苦情解決の仕組み」を利用してのみだい寮における苦情の申し出はありませんでした。



## 平成28年度決算報告（新会計基準）

### 資金収支計算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

福祉事業活動収支	収入	障害福祉サービス等収入	307,301,760
		経常経費寄付金収入	0
		受取利息配当金収入	111,044
		その他の収入	566,710
		福祉事業収入計	307,979,514
	支出	人件費支出	219,105,051
		事業費支出	48,321,965
		事務費支出	32,596,362
		その他の支出	1,302,054
		福祉事業支出計	301,325,432
福祉事業活動収支差額		6,654,082	
施設設備	入	施設整備等収入計	0
	出	施設設備等支出計	18,378,421
	施設整備等収支差額		△ 18,378,421
収財務活動	入	財務活動収入計	0
	出	財務活動支出計	0
	財務活動収支差額		0
その他の収支	収入	積立資産取崩収入	100
		その他の活動収入計	100
	支出	積立資金支出	0
		拠点区分間繰入金支出	100,000
		その他の活動支出計	100,000
その他の活動資金収支差額		△ 99,900	
予備費		0	
当期資金収支差額合計		△ 11,824,239	
前期資金残高		227,182,172	
当期末資金残高		215,357,933	

### 貸借対照表

平成29年3月31日

資産の部	
流動資産	233,900,790
基本財産（土地）	15,110,541
基本財産（建物）	281,139,689
その他の固定資産	441,159,801
資産の部合計	971,310,821
負債の部	
流動負債	18,542,857
固定負債	25,536,590
負債の部合計	44,079,447
純資産の部	
基本金	199,405,920
国庫補助金等特別積立	155,989,929
その他の積立金（施設整備積立金）	404,511,358
次期繰越活動収支差額	167,324,167
（うち当期活動収支差額）	△ 566,321
純資産の部合計	927,231,374
負債及び純資産の部合計	971,310,821

平成28年度は、「みだい寮建物及び設備等再整備計画」に沿って、居住棟ダイルームの改修工事・居室の改修（高齢化対応）等を行いました。また、将来を見据え、グループホームどんぐりの森・甲西の土地と建物の購入を行い、地域生活支援拠点の整備に備えました。

### みだい 第59号 編集後記

暑中お見舞い申し上げます。  
今号では、今年度より新しく始めました職員提供プログラムの写真部の活動や利用者さんの『思い』に寄り添った担当別活動等を載せさせていただきました。  
利用者さんが日々を過ごす中で新たな体験や良い刺激を持てるよう支援していきたいと思っておりますので、今後とも温かく見守って頂ければと思います。

編集後記 望月・深澤